

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和5年10月18日(2023.10.18)

【公開番号】特開2023-90839(P2023-90839A)

【公開日】令和5年6月29日(2023.6.29)

【年通号数】公開公報(特許)2023-121

【出願番号】特願2023-73358(P2023-73358)

【国際特許分類】

A 63 F 7/02 (2006.01)

10

【F I】

A 63 F 7/02 320

【手続補正書】

【提出日】令和5年10月10日(2023.10.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技者が操作可能な操作手段と、

第1始動手段への第1始動条件又は第2始動手段への第2取得条件の成立に基づき判定用情報を取得する取得手段と、

前記判定用情報に基づき特別遊技を実行するか否かを判定する判定手段と、

前記判定手段の判定結果に応じて変動表示を実行する演出制御手段と、

前記演出制御手段は、

前記変動表示において前記操作手段を振動させる振動演出と、前記特別遊技の実行を示唆する示唆演出とを実行可能であり、

前記振動演出には、

操作有効期間を発生させると共に前記操作有効期間中の前記操作手段の操作に応じて振動させる第1振動演出と、

操作有効期間を発生させずに前記操作手段を振動させる第2振動演出と、を含み、

前記第2振動演出には、

所定タイミングで実行される第1演出と、

前記第1演出とは異なるタイミングで実行される第2演出と、を含み、

前記変動表示の実行中に前記第1演出と前記第2演出とを演出期間が重ならないように実行することが可能であり、

前記第2演出は、

前記特別遊技が実行されない前記変動表示において実行されず、前記特別遊技が実行される前記変動表示において前記示唆演出が実行されるときに実行可能であることを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記課題を解決するため、本発明の遊技機(1)によれば、遊技者が操作可能な操作手

50

段（演出ボタン 17、演出レバー）と、第1始動手段への第1始動条件又は第2始動手段への第2取得条件の成立に基づき判定用情報を取得する取得手段（主制御基板 110）と、前記判定用情報に基づき特別遊技を実行するか否かを判定する判定手段（主制御基板 110）と、前記判定手段の判定結果に応じて変動表示を実行する演出制御手段（演出制御基板 130）と、前記演出制御手段は、前記変動表示において、前記操作手段を振動させる振動演出（先読み振動演出、セリフ予告演出、カットイン演出）と、前記特別遊技の実行を示唆する示唆演出（確定演出、大当たり図柄揃い）とを実行可能であり、前記振動演出には、操作有効期間を発生させると共に前記操作有効期間中の前記操作手段の操作に応じて実行される第1振動演出（セリフ予告演出、カットイン演出時の振動演出など）と、操作有効期間を発生させずに前記操作手段を振動させる第2振動演出（先読み振動演出、確定演出時振動演出、大当たり図柄揃い時など）と、を含み、前記第2振動演出には、所定タイミングで実行される第1演出（先読み振動演出など）と、前記第1演出とは異なるタイミングで実行される第2演出（確定演出時振動演出、大当たり図柄揃い時など）と、を含み、前記変動表示の実行中に前記第1演出と前記第2演出とを演出期間が重ならないように実行することが可能であり、前記第2演出は、前記特別遊技が実行されない前記変動表示において実行されず、前記特別遊技が実行される前記変動表示において前記示唆演出が実行されるときに実行可能であることを特徴とする。

10

20

30

40

50